

第3回 活動レポート

まちなか再生ミーティング

■ 開催概要

開催場所：宇部市総合福祉会館

開催日時：平成 27 年 12 月 3 日 (木) 18 時 ~ 20 時

参加者数：22 名

■ オブザーバー

鵜 心治 (山口大学工学部教授)

栗原 清隆 (宇部市地方創生推進協議会会長)

1. はじめに

■ 開会

オブザーバーの鵜教授、栗原地方創生推進協議会会長より、各回の協議を経て、活動のイメージが具体的に固まってきた中で、活動拠点の実現に向けたさらなる実践的なアイデアの提案を期待する旨の挨拶がありました。

■ 第2回活動のまとめ

第2回で協議されたまちなか再生のために「若者ができること、若者に取り組んでほしいこと」、「活動に適した場所」、「活動場所に必要な機能」という3つのテーマに関する参加者の意見が取りまとめられ、報告されました。

《若者ができること、若者に取り組んでほしいこと》

「若者ができること」

イベントの企画や参加、SNS を用いた情報発信等

「若者に取り組んでほしいこと」

まちなかでの活動に参加、起業、就職、労働、購買等

《活動に適した場所》

最も多くの参加者が選んだ場所は、中央町地区、次いで市役所周辺地区 (新天町を含む) でした。

「中央町地区」：多く駐車場や空地や、銀天プラザの活用が期待できる

「市役所周辺地区 (新天町を含む)」：行政機関に近く連携が図りやすいなど

《活動場所に必要な機能》

「イベント」：ステージ、ホール、展示スペース

「情報発信・情報収集」：wi-fi、まちなか情報アプリ

「集会」：ミーティングルーム、運動場、子供預かり所等

「飲食」：カフェ、喫茶店、キッチン

「研究・創作」：大学の研究室、作業制作スタジオ



2. 若者の活動拠点と活動の事例

山口大学の宋助教より、若者の活動拠点と活動事例としてU.D.C (アーバンデザインセンター) によるまちづくり活動が紹介されました。

U.D.Cは、「公・民・学」連携により共同運営型拠点施設として、千葉県柏市の柏の葉アーバンデザインセンター (以下、UDCK) をはじめ、田村市、松山市、福岡市など、全国に9つが設立されています。

UDCKは、つくばエクスプレスの開通に伴い、新規開発が進んでいる駅周辺エリアを活動の場として、2006年に設立されました。

(1) UDCKの組織と運営

「公・民・学」の7つの構成団体による主体的かつフラットな関係の中、各団体が施設運営費、人件費を「持ち寄り」で負担して運営しています。

・大学教員をはじめ、専門家や行政職員が執行委員として、各プロジェクトの企画やマネジメントを実施 (約7名の専任スタッフが常駐)

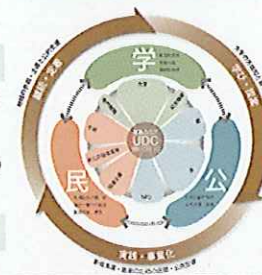
(2) UDCKの活動

近年では駅前広場の整備にあわせ、UDCKを中心に地元主体の維持管理活動や各種イベント等を実施しています。

①「知」を通じた地域連携、②空間デザイン、③住民コミュニティ支援等

(3) センターの役割と機能を維持するためのポイント

・情報や人、活動が集まる「場」として、地域の課題を整理して調整する役割
・①支援体制の構築、②専門家の常駐、③情報発信機能、④拠点施設のデザイン



公 柏市
柏市まちづくり公社・NPO

民 三井不動産・TX
柏商工会議所・ふるさと協議会

学 東京大学・千葉大学

3. 若者の活動拠点施設の仕様と運営

参加者が4つのグループに分かれて、「活動拠点施設の仕様」、「活動内容」、施設の「運営主体」および「利用者」について話し合い、各グループの提案内容が発表されました。

グループ1

《活動拠点の仕様※()内は規模》

「学習」勉強スペース (10人)、ミーティングルーム (40人1クラス分)、
「情報発信」展示スペース (小規模)、発表会場 (40人分)、掲示板
「レクリエーション」イベント広場 (60-70人分)、休憩食事スペース、
カフェ (50人分、その内屋外に20人分)、wi-fi、電源
「防犯」※深夜の施設利用を想定するため
「ファッション」期間限定の店舗※トレンド発信 (2店舗)

《活動内容》

- ① 講義、演習 (大学生、地域住民、起業家向け)
- ② イベントの企画
- ③ サークルでの発表 (演奏会、ダンス等)

《運営主体》

学生・社会人サークル、大学の教員、NPO、商工会議所、地元事業者、民間企業



《利用者》

学生 (中学生、高校生、大学生)、主婦、市民全般

グループ 2

《活動拠点の仕様※() 内は規模》

デッキ、椅子、テーブル、小会議室 (10 人分 × 2~3 室)、展示室、カフェ、交流スペース、多機能トイレ、子育て・孫育て支援施設

《活動内容》

- ①「経営」体験
- ②まちなかイベント
- ③宇部市の情報発信

《運営主体》

住民 (民間企業、地域)、
学生 (有志、部活動、サークル)、
専門家 (タウンマネージャー)
市民活動団体
高専生

《利用者》

市民

《活動目標》

- ①宇部らしさを見つける、情報発信、歴史文化の継承、宇部で仕事を見つめられる環境づくり
- ②ボランティア活動を発展させて、起業へと導く仕組みや活動
- ③組織の透明性を担保して、横のつながりを重視した連携



グループ 3

《活動拠点の仕様※() 内は規模》

- ①カフェ × 図書 × 休息 (大規模)
- ②書籍 × 展示 × wi-fi × カフェ (中規模: 大ホールくらいの大きさ)
- ③飲食店 × オープンスペース (中規模: 大ホールくらいの大きさ)
- ④屋外芝生広場 × ステージ (中規模: 大ホールくらいの大きさ)
- ⑤発表ステージ × カフェ (中規模: 大ホールくらいの大きさ)
- ⑥野外カフェ × 充電場所
(収容人数 2~30 人、バスケットコート 2 面分)
- ⑦製作作業 × 書籍 × カフェ
(収容人数 2~30 人、バスケットコート 2 面分)

《活動内容》

カフェの運営を主として、利用者が以下の活動を行える様にする。

- ①市民の成果 (演奏、ダンス等) の発表
- ②子育て世代の休憩、かつ子どもの遊び
- ③情報共有
- ④電車の待ち合わせ、勉強、暇つぶし

《運営主体》

学校、企業などの専門家、使用者の幹部組織、学生、市民・地域
ボランティア、企業、ラジオ局やテレビ局、図書館、近隣店舗の人々



《利用者》

小・中学生、学生サークル、大学生、
主婦、高齢者、クラブ団体

グループ 4

《活動拠点の仕様※() 内は規模》

- 「キッズ」子供の預かり所 × 商業施設、図書館分室、緑の広場
(子ども 20 人程度)
- 「ミーティング」ミーティングスペース
(大きめのミーティングルーム + 5~10 人が集まって話し合える
スペース 2~3 室 + 自習スペース 30 人分程度)
- 「発表」発表の場 (ヒストリア宇部くらい)
- 「カフェ」カフェ × 製作作業スペース、書籍コーナー
(カフェのみの場合 20 人程度、その他を合わせて 50 人程度収容可能)
- 「広場」ベンチ、広場

《活動内容》

- 「キッズ」保育、医療の学校に参加、子育て世代が楽しむ
- 「ミーティング」イベントの企画、地域に関する議論、学生の学習
- 「発表」学生、授業、講習会、市のサークルの発表
- 「カフェ」書籍コーナーの本をカフェで読める、子どもと一緒に遊べる
カフェ
- 「広場」憩い、イベント時の拠点

《運営主体》

学生、商店街、民間企業、個人事業主、市の支援のもとでまちづくりの
専門家、企業 + 地域や学生が行う



《利用者》

学生、子ども、高齢者、子育て世代

オブザーバーのコメント

《活動拠点施設の仕様と活動内容》

鵜 教授: まちなか再生のための若者の活動拠点を考える場合、まちなかでの学習、ボランティア活動等があげられていますが、それを経済的な循環や、波及効果に結びつけるためにはどうすれば良いか考えることも必要です。そのような中から必要な機能は何かを考えることが重要です。

栗原 会長: 事業コンセプトとして家庭や職場・学校以外のサードプレイスを如何に生み出すかが重要であると思います。その中でターゲットを絞った提案も考えてほしいと思います。

《施設の運営主体と利用者》

鵜 教授: 運営主体については若者を中心に考えていく事は良いですが、若者に頼りすぎるのでは良くないと思います。種々の活動に対してどのようなインセンティブがあるのかを明確にしないと持続可能な活動につながらない事もあります。

栗原 会長: 市場経済はボランティアベースでは成り立たないので、運営主体を経営主体と置きかえて議論し、事業、活動の持続可能性を検討する必要があると思います。

今後の開催日程 第 4 回 … 12 月 17 日 (木) (場所: 宇部市文化会館 研修ホール、朝日町 8 番 1 号)

http://www.city.ube.yamaguchi.jp/machizukuri/toshikeikaku/chuushinnshigaichi/machinaka_saisei_meeting.html

問い合わせ: 宇部市総合政策部まちづくり総合推進室 Tel.34-8896

制作: 山口大学都市計画・都市設計研究室、発行: 宇部市